

## Population aging, retirement policy, and current account reversals

名古屋市立大学 稲垣 一之

### <問題意識>

巨額の経常収支赤字が縮小に転じることは、経常収支の反転と呼ばれている。この分野における実証研究では、経常収支の反転に影響する要因として、(1) 内需（あるいは GDP）の減少、(2) 交易条件の改善、(3) 自国通貨の減価、などが指摘されてきた。しかしながら、本研究は、「高齢化」も経常収支の反転に影響する重要な要因であることを示す。

### <実証分析>

1993 年から 2014 年のデータを使用して、アメリカ経常収支と外国平均寿命の長期均衡関係が 2000 年代前半に反転したことを示す。外国平均寿命の上昇は、2000 年代前半までアメリカ経常収支の赤字拡大要因であったが、その後は赤字縮小要因である。この分析結果は頑健であり、景気変動・交易条件・金融危機・中国経済など、近年のアメリカ経常収支に影響を与えたとされる要因をコントロールしたうえで確認されるものである。

実証分析では外国としてアメリカを除く G7 のデータを使用した。93 年にアメリカの平均寿命は最下位となり、その他 6 カ国との平均寿命の差は現在まで広がり続けている。この「外国の高齢化がより急速に進む」という前提の下で、自国（＝アメリカ）の経常収支と外国の平均寿命の関係を理論的に描写して、上述した実証結果の解釈に役立たせる。

### <理論分析>

高齢労働者を追加した 2 国 1 財 2 期間の世代重複モデルを使用する。比較静学の結果、自国の経常収支と外国の高齢者生存率（平均寿命）の関係は、U 字型曲線で描写可能であることが示される。この結果は、外国の高齢化がより急速に進むプロセスにおいて、自国の経常収支赤字は最初に拡大するが、その後は縮小することを示唆している（経常収支の反転）。更に、同じ枠組みで退職政策（定年延長）が経常収支に与える影響を分析して、退職年齢が高い国ほど高齢化による経常収支の反転は早期に生じることが示される。

### <結論>

平均寿命の上昇による高齢化を考える場合、外国の高齢化によって拡大した自国の経常収支赤字額は、更なる外国の高齢化によって縮小する可能性がある（高齢化による経常収支の反転）。このトレンドは、高齢化に直面する国が退職政策を積極的に実施する場合ほど、より一層強くなるかもしれない。